

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-009623

(43)Date of publication of application : 19.01.1999

(51)Int.Cl.

A61F 13/02  
A61F 13/02  
A61K 9/70  
A61K 9/70  
A61L 15/58

(21)Application number : 09-181704

(71)Applicant : NICHIBAN CO LTD

(22)Date of filing : 23.06.1997

(72)Inventor : FUJISAWA HIROMITSU  
OYAMA KUNIHIO

## (54) MEDICAL ADHESIVE TAPE

### (57)Abstract:

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To permit slipping property on an external surface to be proper and to improve fitting property to prevent an unnatural feeling by setting the static friction coefficient of a surface at a side where the adhesive layer of unwoven cloth is not formed to be within a specified value range.

**SOLUTION:** Polyurethane unwoven cloth, etc., for example, provided with ventilation and extension/contraction property is used. Its basis weight is not limited but it is favorable to be within the range of about 50-100 g/m<sup>2</sup>. The thickness is normally made to be about 100-500  $\mu$ m. The unwoven cloth is adopted as a base material, the adhesive layer is formed on its one surface and an adhesive tape is formed. The adhesive tape is smoothening-processed and the static friction coefficient of the adhesive layer forming surface and the external surface at an opposite side is made to be within the range of 0.30-0.50. When the static friction coefficient exceeds 0.50, slipping is deteriorated, peeling-off occurs and fitting property is reduced. When it is under 0.30, an object cannot be caught owing to slipping so as to cause inconvenience and the unnatural feeling. Thus, fitting property is improved and the unnatural feeling is prevented.

## LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 28.02.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 03.12.2004

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

## (12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-9623

(43) 公開日 平成11年(1999) 1月19日

(51) Int.Cl. <sup>4</sup>	識別記号	F I		
A 6 1 F 13/02	3 1 0	A 6 1 F 13/02	3 1 0 A	
	3 5 0		3 5 0	
A 6 1 K 9/70	3 0 4	A 6 1 K 9/70	3 0 4	
	3 7 3		3 7 3	
A 6 1 L 15/58		A 6 1 L 15/06		
		審査請求 未請求 請求項の数1 F D (全 7 頁)		

(21) 出願番号	特願平9-181704	(71) 出願人	000004020 ニチバン株式会社 東京都文京区関口二丁目3番3号
(22) 出願日	平成9年(1997) 6月23日	(72) 発明者	藤澤 博充 東京都文京区関口二丁目3番3号 ニチバ ン株式会社内
		(72) 発明者	大山 国広 東京都文京区関口二丁目3番3号 ニチバ ン株式会社内
		(74) 代理人	弁理士 西川 繁明

## (54) 【発明の名称】 医療用粘着テープ

## (57) 【要約】

【課題】 外表面がヒトの皮膚の感触に近い適度の滑り性を有する医療用粘着テープを提供すること、より具体的に、外表面が適度の滑り性を有し、指などの肌に貼付したとき、フィット性が良好で、違和感を感じないドレッシングテープ、外科用粘着テープ、救急絆創膏などの医療用粘着テープを提供すること。

【解決手段】 不織布の片面に粘着剤層を形成した医療用粘着テープにおいて、該不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面の静摩擦係数が0.30～0.50の範囲内であることを特徴とする医療用粘着テープ。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 不織布の片面に粘着剤層を形成した医療用粘着テープにおいて、該不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面の静摩擦係数が0.30～0.50の範囲内であることを特徴とする医療用粘着テープ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、ドレッシングテープ、外科用粘着テープ、救急絆創膏などの医療用粘着テープに関し、さらに詳しくは、伸縮性の不織布を基材とし、その外表面がヒトの皮膚の感触に近い適度の滑り性を有する医療用粘着テープに関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、基材（支持体）の片面に粘着剤層を形成した粘着テープが、医療用粘着テープとして使用されている。このような医療用粘着テープの具体例としては、患部の保護や手術部位の被覆、縫合、固定に用いられる手術用粘着ドレッシングや閉鎖用粘着ドレッシングなどのドレッシングテープ；外科用補助材料として使用される外科用粘着テープ；特殊処理を施したパッド部を付した救急絆創膏などがある。これらは、医療補助用テープと呼ばれることがある。医療用粘着テープは、人体に貼付するものであるため、その基材としては、柔軟性、強度、風合い、透明性、患部の密閉性などの問題を考慮して選択されている。各種基材の中でも、通気性及び伸縮性を有する不織布は、ドレッシングテープや救急絆創膏などの医療用粘着テープの基材として優れた特性を発揮することができる。そのため、最近では、不織布を基材とし、その片面に皮膚感作の少ない粘着剤層を形成した粘着テープ（不織布テープ）が、医療用粘着テープとして汎用されている。

【0003】医療用不織布テープの基材としては、例えば、ポリウレタン（PU）、スチレン-イソプレネ-スチレン共重合体（SIS）、スチレン-エチレン-ブチレン-スチレン共重合体（SEBS）などの伸縮性と通気性を備えた不織布が使用されている。粘着剤としては、アクリル系粘着剤、ゴム系粘着剤などが使用されている。ところが、従来の不織布基材は、一般に、表面の滑り性が悪いという欠点がある。具体的に、市販のPU、SIS、SEBSなどの不織布基材の多くは、静摩擦係数が0.53～1.00程度と比較的大きく、滑り性が不足している。滑り性が悪い不織布を基材とする医療用粘着テープは、使用時に、その表面が身体他の部分に引っ掛かったり、衣類と擦れたりすることにより、貼付位置がずれたり、剥れやすいという問題がある。また、不織布基材の滑り性が悪いと、医療用粘着テープの表面に摩擦による静電気汚染が生じたり、医療用粘着テープを指に巻いたときなどに違和感を生じ、フィット性に劣るものとなる。

【0004】不織布に処理剤を添加して、表面の滑り性

を改善する方法が知られているが、粘着剤の投着力が低下して、皮膚などの被着体に粘着剤が残留しやすくなるという問題点がある。フィルムや不織布をエンボス加工したり、加圧ロール間を通して加熱・加圧するといった物理的な方法により、平滑化処理すること知られているが、充分に満足できるものは得られていない。例えば、感圧性接着剤で一方の表面を被覆された、型押しされた弾性フィルムを含んでなり、接着剤を含まない表面上の摩擦係数が約1.0よりも低い粘着包帯が提案されている（特開平3-178664号公報）。該公報には、共重合ポリエステルエーテルエラストマーからなる弾性フィルムを型押しすることにより、摩擦係数を未処理フィルムの0.64から0.61または0.53に低減した例が示されている。

【0005】一方、PU不織布基材で、平滑化処理により、静摩擦係数を0.20程度にまで低減したものが市販されている。しかしながら、静摩擦係数が0.30未満の不織布基材は、滑りすぎるため、このような不織布基材を用いた医療用粘着テープは、例えば、軟質塩化ビニルフィルムを基材とする救急絆創膏を使用したときに感じるのと同様の問題点を有している。具体的には、滑りすぎる基材を用いた粘着テープは、指に巻いたときに、滑ってものがつかみにくく、不便や違和感を感じる。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】本発明の目的は、不織布の片面に粘着剤層を形成した医療用粘着テープであって、その外表面がヒトの皮膚の感触に近い適度の滑り性を有する医療用粘着テープを提供することにある。より具体的に、本発明の目的は、外表面が適度の滑り性を有し、指などの肌へ貼付したとき、フィット性が良好で、違和感を感じないドレッシングテープ、外科用粘着テープ、救急絆創膏などの医療用粘着テープを提供することにある。本発明者は、従来技術の有する問題点を克服するために鋭意研究した結果、基材となる不織布に、エンボス加工、滑り度調整処理液の塗布処理加工、これらの組み合わせなどの平滑化処理を行うことにより、その外表面（すなわち、粘着剤層が形成されていない側の表面）の静摩擦係数を0.30～0.50の選択された範囲内に調整したところ、ヒトの皮膚の感触に近い適度の滑り性を有する医療用粘着テープの得られることを見いだした。本発明は、これらの知見に基づいて完成するに至ったものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明によれば、不織布の片面に粘着剤層を形成した医療用粘着テープにおいて、該不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面の静摩擦係数が0.30～0.50の範囲内であることを特徴とする医療用粘着テープが提供される。また、本発明によれば、下記の如き好ましい態様が提供される。

1. 不織布が、通気性及び伸縮性を有するポリウレタン(PU)不織布、スチレン-イソプレン-スチレン共重合体(SIS)不織布、またはスチレン-エチレン-ブチレン-スチレン共重合体(SEBS)不織布である前記の医療用粘着テープ。

2. 不織布が、平均繊維径7~16 $\mu$ mの超極細フィラメントより形成されたものである前記の医療用粘着テープ。

3. 超極細フィラメントが、超極細ポリウレタンフィラメントである第2項に記載の医療用粘着テープ。

4. 不織布が、50~100g/cm<sup>2</sup>の範囲内の坪量を有するものである前記の医療用粘着テープ。

【0008】5. 粘着剤が、アクリル系粘着剤である前記の医療用粘着テープ。

6. 粘着剤が、ゴム系粘着剤である前記の医療用粘着テープ。

7. 不織布が、エンボス加工されたものである前記の医療用粘着テープ。

8. エンボス加工されて、不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面に、交差する稜線により限られた多数の凹所が形成されている第7項に記載の医療用粘着テープ。

9. 不織布が、不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面に、滑り度調整処理液による塗布処理加工が施されたものである前記の医療用粘着テープ。

10. 滑り度調整処理液が、無機充填剤または顔料と結着樹脂とを含有する塗布液である第9項に記載の医療用粘着テープ。

11. 不織布が、エンボス加工され、かつ、不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面に、滑り度調整処理液による塗布処理加工が施されたものである前記の医療用粘着テープ。

12. 医療用粘着テープが、ドレッシングテープ、外科用粘着テープ、または救急絆創膏である前記の医療用粘着テープ。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明で使用する不織布としては、例えば、通気性及び伸縮性を有するポリウレタン(PU)不織布、スチレン-イソプレン-スチレン共重合体(SIS)不織布、及びスチレン-エチレン-ブチレン-スチレン共重合体(SEBS)不織布を挙げることができる。これらの不織布の中でも、超極細フィラメントよりなるものが好ましく、平均繊維径が7~16 $\mu$ mの範囲内にある超極細ポリウレタンフィラメントよりなるポリウレタン不織布が特に好ましい。不織布の坪量は、特に限定されず、一般に粘着テープの基材として使用されている不織布の坪量の範囲内であればよいが、50~100g/cm<sup>2</sup>の範囲内にあることが特に好ましい。不織布の厚みは、通常100~500 $\mu$ m程度である。これらの不織布は、一般に、表面の滑り性が悪く、

静摩擦係数が0.50を超えるものである。表面平滑化処理を行った不織布が市販されているが、そのものの静摩擦係数は0.20程度と低く、滑りすぎるという問題がある。

【0010】坪量が50~100g/cm<sup>2</sup>で、平均繊維径が7~16 $\mu$ mの超極細ポリウレタンフィラメントよりなるポリウレタン不織布(マイクロファイバー型ポリウレタン不織布)は、新規な基材であって、従来のポリウレタン不織布を含むその他の基材と比べて、外観及びフィット性が良好で、違和感が少なく、その他の要求品質を高度に満足する医療用粘着テープを与えることができる。このマイクロファイバー型ポリウレタン不織布は、ポリオール(例、ポリヘキサメチレンジオール)、ジソシアネート(例、4-ジフェニルメタンジイソシアネート)、及びハードセグメントとなる低分子量ジオール(例、1,4-ブタンジオール)を原料として溶融重合を行い、得られた熱可塑性ポリウレタン弾性体をメルトブロー法により不織布とする方法により得ることができる。ただし、メルトブロー法による不織布の製造方法においては、極めて小さな細孔を有するノズル自体を幅方向に往復移動させ、かつ、ネットコンベアの移動速度をノズルの幅方向での往復移動速度よりも遅い速度(例えば、1/3以下の速度)に調整することが好ましく、このような方法により、平均繊維径が7~16 $\mu$ mと小さなものであっても、必要な強度を有するマイクロファイバー型ポリウレタン不織布を得ることができる。ところが、このマイクロファイバー型ポリウレタン不織布は、ゴムの性質が強く、滑りが悪い。

【0011】本発明では、通常、静摩擦係数が0.50を超える滑り性の悪い不織布、あるいは該不織布を基材とし、片面に粘着剤層が形成された粘着テープを平滑化処理して、該不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面(外表面)の静摩擦係数が0.30~0.50の範囲内になるように調整する。不織布基材表面の静摩擦係数が0.50を超過すると、滑り性が悪くなり、剥れの原因となったり、フィット性が低下し、逆に、0.30未満であると、例えば、軟質塩化ビニル製の救急絆創膏を指に巻いたときに感じるように、滑ってものがつかみにくく、不便や違和感を感じる。静摩擦係数は、好ましくは0.35~0.45である。

【0012】平滑化処理法としては、例えば、エンボス加工、滑り度調整処理液の塗布処理加工、これらを組み合わせた方法などが挙げられる。エンボス加工としては、例えば、エンボスロールとアンビルロールを組み合わせて、両ロール間に不織布を通し、加熱、加圧下で押圧処理する方法が好ましい。エンボス模様としては、不織布のエンボスロールが接触する面とは反対側の面に多数の凹凸が生じて、接触面積が減少するような形状のものであれば特に限定されないが、図1に示すように、交差する稜線(凸条)により限られた多数の凹所が形成さ

れ構造のものが好ましい。稜線間の幅は、通常、0.8～1.6mm、好ましくは1.0～1.4mm程度である。エンボス加工処理自体は、公知の装置及び方法を採用することができる。エンボス加工により、不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面に浮き出した凸部（稜線など）の面積は、全体の面積の通常50%以下、好ましくは40%以下、より好ましくは30%以下であることが望ましい。これにより接触面積が減少し、滑り性が向上する。エンボス加工により、不織布の強度も向上させることができる。滑り度調整処理液の塗布処理加工（滑り度調整加工ともいう）としては、無機充填剤または顔料と結着樹脂とを含有する塗布液を滑り度調整処理液として用いて、不織布の表面に塗布する方法が挙げられる。滑り度調整処理液をエンボス加工した不織布の表面に塗布してもよい。塗布面が、不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面となる。

【0013】無機充填剤または顔料としては、例えば、チタン白（酸化チタン）、亜鉛華、鉛白、リトボン、黄鉛、コバルトイエロー、モリブデン赤、ベンガラ、鉛丹、群青、コバルトグリーン、クロムグリーン、カーボンブラック、炭酸カルシウム、硫酸バリウム、水酸化アルミニウムなどの微粒子状の無機充填剤または無機顔料；レーキレッドC、ベンジジイエローなどの有機顔料などが挙げられる。これらは、それぞれ単独、あるいは2種以上を組み合わせ使用することができる。結着樹脂としては、不織布との密着性が良好なウレタン系樹脂、アクリル系樹脂、塩化ビニル-酢酸ビニル共重合体樹脂などが使用される。結着樹脂は、柔軟な塗膜を形成できるものが特に好ましい。塗膜が硬いと、不織布基材の伸縮性に追随することができず、使用時にカールが発生しやすくなる。

【0014】無機充填剤または顔料と結着樹脂は、アルコール、脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素、エステル、エーテル、ケトンなどの各種有機溶剤に分散ないしは溶解させて塗布液を調製する。無機充填剤または顔料と結着樹脂との重量比は、通常5:95～50:50であり、塗布液中の固形分濃度は、通常0.5～50重量%である。塗布量（乾燥量）は、通常1～8g/m<sup>2</sup>、好ましくは2～5g/m<sup>2</sup>である。塗布方法としては、グラビアロールを用いた印刷機による印刷法が好ましい。この滑り度調整加工により、不織布表面の静摩擦係数を調整するとともに、所望の色に着色することもできる。医用用粘着テープに透明性が特に要求される用途では、貼付した下部状態の観察が可能となるように、無機充填剤や顔料の種類、塗布量などを調整する。本発明において、不織布の粘着剤層が形成されていない側の表面の静摩擦係数を0.30～0.50の範囲内に調整するには、不織布にエンボス加工を施した後、さらに、滑り度調整処理液の塗布処理加工を行うことが好ましい。

【0015】粘着剤としては、アクリル系粘着剤、ゴム

系粘着剤、シリコン系粘着剤などが用いられるが、皮膚刺激性のないものが好ましい。アクリル系粘着剤としては、例えば、ブチルアクリレート、イソノニルアクリレート、2-エチルヘキシルアクリレート、2-ヒドロキシエチルアクリレートなどのアクリル酸エステル系モノマーの単独または共重合体、あるいはこれらのモノマーと酢酸ビニル、アクリル酸などのその他のモノマーとの共重合体などが挙げられる。ゴム系粘着剤としては、例えば、合成ポリイソブレンゴム、スチレン-イソブレン-スチレンブロック共重合体などのゴム基に、粘着付与樹脂、軟化剤などを配合した組成物が挙げられる。本発明の医療用粘着テープは、ドレッシングテープ、外科用粘着テープ、救急絆創膏などとして、ヒトの皮膚（肌）に直接貼付して使用される用途に好適に使用することができる。救急絆創膏として使用する場合には、通常、粘着テープを略長方形（通常、小判形）に打ち抜き、粘着剤層の中央部にガーゼなどからなるパッドを載せ、さらに、被覆物（剥離ライナー）を貼り合わせて製品とする。

【0016】

【実施例】以下に実施例及び比較例を挙げて、本発明についてより具体的に説明する。物性の測定方法は、次のとおりである。

#### (1) 静摩擦係数

静摩擦係数は、JIS P 8147に記載されている「紙及び板紙の摩擦係数測定法」に従って、傾斜方法により測定した。測定温度23℃、相対湿度65%の条件下で測定した。なお、市販の救急絆創膏などで試験片の大きさが小さいものは、複数枚を組み合わせで試験片とした。

#### (2) 粘着特性

粘着テープの粘着特性は、JIS Z 0237に従って測定した。測定温度23℃、相対湿度65%の条件下で測定した。

#### (3) 引張特性

JIS K 7113に準じて引張試験を行った。

#### (4) 滑り性実用試験

18～50才の健康な男女8名により、後記の各表に示す基準に従って、①貼付中の粘着テープの引っかかり性、②貼付中の粘着テープ表面の滑り性、及び③貼付中の粘着テープの滑り性が皮膚の滑り性に近い順について評価を行った。

【0017】【実施例1】数平均分子量が2000のポリヘキサメチレンジオールと4、4'-ジフェニルメタンジイソシアネートと1、4-ブタンジオールを2軸重合機で溶融重合して熱可塑性ポリウレタンを作製し、次いで、メルトブロー法により、坪量60g/m<sup>2</sup>、平均繊維径11μmのポリウレタン不織布を得た。このポリウレタン不織布をエンボスロールとアンビルロールとの間に通し、加熱、加圧下で押圧処理した。この結果、図1

の電子顕微鏡写真に示すように、交差する稜線により限られた多数の凹所が形成され構造のエンボス模様は形成された。これらの稜線間の幅(エンボスピッチ)は、1.2mmであった。次に、このエンボス模様の上に、滑り度調整処理液(酸化チタン10重量部/ウレタン系樹脂90重量部;トルエン、イソプロピルアルコールで10重量%溶液としたもの)をグラビアロールを備えた印刷機により、乾燥量が2~3g/m<sup>2</sup>となるように塗布し乾燥した。一方、剥離処理した紙基材上に、アクリル系粘着剤液(2-エチルヘキシルアクリレート80重量部/2-ヒドロキシエチルアクリレート9重量部/酢酸ビニル8重/アクリル酸3重量部のランダム共重合

\*体;数平均分子量35万;酢酸エチル、トルエン、n-ヘキサンで40重量%溶液としたもの)を乾燥量が40g/m<sup>2</sup>になるように塗布し、乾燥箱を通して乾燥後、前記不織布基材の非加工面と貼り合わせた。このようにして得られた粘着テープの物性の測定結果を表1に示す。

【0018】[実施例2、比較例1~2]エンボス加工及び滑り度調整加工のいずれか1方または両方を行わなかったこと以外は、実施例1と同様にして粘着テープを作製した。結果を表1に示す。

【0019】

【表1】

	実施例1	実施例2	比較例1	比較例2
サンプルNo.	A	B	C	D
エンボス加工	あり	あり	なし	なし
滑り度調整加工	あり	なし	あり	なし
テープ厚さ (μm)	210	200	220	220
テープ呼量 (g/m <sup>2</sup> )	97	95	96	99
対ベーク粘着力 (N/24mm)	6.9	6.7	7.0	7.0
ブローバック (N/5mmφ)	1.16	1.21	1.20	1.18
保持力 (mm/12×20mm, 9.8N, 15min)	1.1	1.2	1.0	1.3
自背面粘着力 (N/24mm)	5.7	5.8	6.1	5.9
静摩擦係数	0.41	0.48	0.51	0.57
50%引張応力 (N/24mm)	3.8	3.8	3.8	4.0
破断強度 (N/24mm) MD	15.5	17.0	14.5	16.0

【0020】<滑り性実用試験>下記のサンプルを使用して、粘着テープ表面の滑り性実用試験を行った。

サンプルNo.

A: 静摩擦係数=0.41 (ポリウレタン不織布; 実施例1)

B: 静摩擦係数=0.48 (ポリウレタン不織布; 実施例2)

C: 静摩擦係数=0.51 (ポリウレタン不織布; 比較例1)

D: 静摩擦係数=0.57 (ポリウレタン不織布; 比較例2)

E: 静摩擦係数=0.21 (ポリウレタン不織布製救急絆創膏; 市販品)

30※ F: 静摩擦係数=0.27 (軟質塩化ビニル製救急絆創膏; 市販品)

G: 静摩擦係数=0.55 (軟質塩化ビニル発泡体製救急絆創膏; 市販品)

【0021】(1) 貼付中の粘着テープと指の引っかかり試験

8名の被験者に、上記粘着テープを左右の人差し指と中指に巻き付けて貼付してもらい、粘着テープと他の指との間の引っかかりの程度を訊ね、表2に示す基準で評価してもらった。結果を表2に示す。

40 【0022】

【表2】

※

	実施例			比較例			
サンプルNo.	A	B	C	D	E	F	G
殆どなし	7	6	3	0	4	3	0
僅かにある	1	2	2	0	1	5	0
少しある	0	0	2	3	3	0	0
かなりある	0	0	1	5	0	0	8

サンプルNo. A及びBは、ポリウレタン不織布基材の静摩擦係数を適度の範囲内になるように調整しており、しかも柔軟性で、ヒトの肌との密着性が良く、浮きが少ないためか 7～8割の被験者が粘着テープと指との引っかかりが殆どないと回答した。

【0023】(2) 貼付中の粘着テープの滑り性試験 ※

※ 8名の被験者に、上記粘着テープを左右の人差し指と中指に巻き付けて貼付してもらい、粘着テープの滑り性について、表3に示す基準で評価してもらった。結果を表3に示す。

【0024】

【表3】

サンプルNo.	実施例		比較例				
	A	B	C	D	E	F	G
滑りすぎる	0	0	0	0	5	4	0
若干皮膚よりも滑る	1	1	0	0	1	2	0
皮膚に近い	7	5	4	2	2	1	0
若干皮膚よりも滑りにくい	0	2	3	3	0	1	1
滑りにくい	0	0	1	3	0	0	7

サンプルNo. A及びBは、基材がポリウレタン不織布であり、静摩擦係数を適度の範囲内になるように調整しているため、皮膚に比べて、滑りにくくも滑りやすくもなく、6～8割の被験者が皮膚に近い滑り性であると回答した。

【0025】(3) 貼付中の粘着テープの滑り性がヒト

の皮膚の滑り性に近い順位

※

※ 8名の被験者に、上記粘着テープを左右の人差し指と中指に巻き付けて貼付してもらい、粘着テープの滑り性について、ヒトの皮膚の滑り性に近い順に番号を付けてもらった。結果を表4に示す。

【0026】

【表4】

被験者名	実施例		比較例				
サンプルNo.	A	B	C	D	E	F	G
K. Y	1	2	3	5	4	6	7
M. I	1	2	3	7	5	7	6
K. N	2	1	5	6	7	3	4
A. S	2	1	3	4	6	5	7
C. K	1	3	2	4	5	6	7
H. S	1	3	2	6	4	5	7
S. I	1	2	4	3	7	5	6
K. K	1	2	4	3	6	5	7
平均順位	1.25	2.00	3.25	4.75	5.50	5.25	6.38

サンプルNo. Aは、ポリウレタン不織布基材を用いて静摩擦係数を適度の範囲内に調整しているため、殆どの被験者から最も皮膚に近い滑り性を有するものであるとの評価を受けた。サンプルNo. Bは、これに次ぐ評価を受けた。

【0027】

【発明の効果】本発明によれば、伸縮性の不織布を基材とし、その外表面がヒトの皮膚の感触に近い適度の滑り性を有する医療用粘着テープが提供される。本発明の医

40

療用粘着テープは、外表面が適度の滑り性を有し、指などの肌に貼付したとき、フィット性が良好で、違和感を感じないため、例えば、ドレッシングテープ、外科用粘着テープ、救急絆創膏などとして好適である。

【図面の簡単な説明】

【図1】図1は、エンボス加工したポリウレタン不織布の凹凸状の組織形態を示す顕微鏡写真である。(倍率は100倍)

【図1】

